

# PREHABILITATION

リハビリテーション課長 椿野 稔

プレハビリテーション (prehabilitation) とは、リハビリテーションに接頭辞である、“pre-” をつけた造語で術前に行うリハビリテーション治療といった意味合いを含んでいます。手術前からの運動療法、栄養管理、口腔ケア、禁煙、不安対策などを行うことで、手術後の回復が改善されると言われています。

当院でも呼吸器疾患を合併されている患者さんに対しては、入院前にリハビリテーション科へ処方があり、呼吸訓練、筋力増強訓練、歩行訓練等の指導の取り組みを始めています。超高齢の淡路地域では、ロコモティブ症候群、フレイル・サルコペニアに該当する患者さんが、今後益々増加することが予想されます。そのような患者さんにも術前から介入することで術後の回復が期待されますので、急性期病院のリハビリテーション科として更に取り組んでいきたいと思っております。



## 栄養管理部

入院中でも季節感を感じてもらえるように行事食を提供しています。当院の行事食は、正月や節分など歳時に合わせたメニューや食材を使用し、行事食カードを添えています。小児科用には、目で見て楽しめる盛り付けを工夫し、手作りカードを添えています。給食を入院中に少しでも楽しんでもらえるように工夫しています。



お正月用常食



小児用クリスマス



お正月用全粥



小児用七夕



淡路医療センターからの

# お知らせ



求人案内



## 医療スタッフ募集

未経験OK・資格不要

医師事務作業補助者・看護補助者

- 看護師 ●薬剤師 ●臨床検査技師
- 診療放射線技師 ●視能訓練士 (要資格)

勤務条件、保険の取り扱い等、詳細はお気軽にお問い合わせください。病院のホームページに詳細を掲載しています。

<https://awajimc.jp/archives/140>

担当:総務部総務課(採用担当)



## ご寄附のお願い

医療機器の整備や施設・設備の充実、患者サービスの向上などを目的に、個人や団体からのご寄附を受け付けております。皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

所得税法第78条第2項第1号及び法人税法第37条第3項第1号に規定する「国又は地方公共団体に対する寄附金」に該当しますので、確定申告に際し、控除等を受けることができます。

病院のホームページに「寄附申出書」(ワード)を掲載しています。

<https://awajimc.jp/archives/5522>

担当:総務部総務課(寄附担当)



LINE 公式アカウント

# 友だち募集中

@397klocy  
看護部



看護部では、次年度の新規採用の応募者を増やそうと、コロナ禍ならではの方法で活動しています。本来、看護学生のみなさんに県立淡路医療センターの魅力を見学やインターシップで伝えていきます。また、看護師を目指す高校生の方に当センターで実際に看護体験をしてもらい、将来の職業を選択する支援をしていました。

今年度は、看護大学や専門学校の見学もできないため、どうすれば魅力を伝えることができるかを考えました。その一つにLINEの活用を考え、公式アカウントを取得。淡路と淡路医療センターの魅力が詰まった動画や、その時々HOTな話題を提供しています。特に動画は、当センターのミルクガールが活躍しています。興味のある方は、是非QRコードから友だちになって頂き、動画を観てくださいね。



兵庫県立淡路医療センター

# AMC NEWS



〒656-0021  
兵庫県洲本市塩屋1丁目1-137  
☎:0799-22-1200(代表)  
<http://www.awajimc.jp>

VOL.43

令和3年  
2月発行

## コロナ禍の中で、その先を見据えたい

兵庫県立淡路医療センター 院長

小山 隆司



一月も末になると、日の沈むのも少し遅くなり、日中の日差しも少しづつ春の日差しに近づいてきます。春はまだまだながら、どこか春の予感がする日差しが好きで、この時期になると心がうきうきしてきます。しかし、残念ながら今年はずいぶん寒いコロナのせいでは、二回目の非常事態宣言の真つただ中。この生活がいつまで続くかと思えば、否応なしに気持ちも沈みます。さて、コロナでわれわれの生活は一変しました。マスク、うがいや手洗いの徹底、ソーシャルディスタンス。街の中のいたる所に注意喚起の表示や間隔を取る事を促すマーキングが施されています。これらは一年前にはなかった、あまり有り難くない変化です。

一方、コロナの前には変化の兆しはあったものの、コロナで変化のスピードが急加速したのもある。

ります。在宅勤務や、われわれが最近よく行うZoom会議もその一つです。コロナが導入を前倒しにした事は明らかで、まさしく怪我の功名といえます。コロナを機に、これからは世の中が大きく変わって行く事を多くの識者が指摘していますが、変化には敏感でありたいと思っています。

一年前のくにもみ県病だよりVOL.42「生涯現役!あわじ健康長寿の島づくり」事業を皆様にご報告しました。

この事業は、「栄養」「運動」「社会参加」を3本柱に、健康寿命の延伸だけでなく、高齢者就業促進や高齢者に優しい淡路島農業の展開も視野に入れた取組で、全ての高齢者が健康な生活を享受し、介護を必要とする高齢者を一人でも少なくする事を目的としています。昨年度末の3月には、骨粗鬆症と心不全のセルフチェックが簡単にできるタブレットの作成も終わり、4月には生き生き100歳体操の場などで皆さんに使っていただく事を考えていましたが、コロナ禍の影響をもうに受け、残念な事にタブレットは倉庫で冬眠中です。せっかく準備したタブレットです。一日も早いコロナの終息、そして事業の再開が待たれます。

コロナによる巣ごもりも大きな問題です。コロナ禍の前には何気

なく行われていた人と人との触れ合い。これは年代を問わず重要ですが、このような交流を最も必要とするのは高齢者です。どこかに出かけて行っての人の交流。高齢者にとっては、交流こそが元気の秘訣です。何とか工夫をして、高齢者にはもとに近い生活に一日も早く戻ってほしいものです。

そのような中で、ワクチンは一糸の光明ですが、我々が元に近い生活に戻るにはもう少し時間がかかるように思います。そして、コロナを境に世の中は大きく変わって行くはずでは、しかし、これに必要な変化と前向きにとらえ、変化に追いついて行きたいものです。「コロナのお陰で前よりもずっと暮らしやすくなった。」、そう言えるようにならないうけないと考えると思います。

最後に、多くの皆様から励ましのお言葉をたくさん頂戴しました。本当にありがとうございます。この紙面をお借りし、皆様にお礼を申し上げます。

そしてもう一つ。淡路島の医療(コロナを含む)は、淡路島で働くすべての医療者で支えているという事。そして、医療者は一団となって頑張っているという事を皆様にお伝えして、筆を擱かせていただきます。

## 血管造影撮影装置

フィリップス社製 Azurion 7 B20/15 放射線部

この度、適応拡大のため血管造影室の増設工事を施工し、3台目となる最新鋭の血管造影装置を導入しました。

正面用と側面用の2つの支持アームを装備し、カテーテル検査や血管内手術における手技の効率化や精度の向上が期待でき、検査時間の短縮と被ばく線量の低減を実現します。

また、最新の画像技術により、ステントやコイルなどの微細な形状や内部構造を描出することができ、効果的で安全な診療を支援します。(令和3年3月導入)



## ポータブル撮影装置

放射線部

富士フィルム社製 CALNEO Go PLUS、CALNEO AQRO

主に病棟や手術室での撮影に用いる装置ですが、1台は新型コロナ感染症を対象とした専用装置として導入しました。(令和2年11月導入)

その場で撮影から画像確認まで可能なフラットパネル(FPD)システムを搭載した一体型のポータブル装置です。(両機種とも)

撮影に手間が掛からず、画像確認まで時間が掛からないため、患者の負担軽減や医療従事者の感染リスク低減にも貢献します。

検査・放射線部  
放射線技師長 加藤 康彰



## 紫外線UV照射ロボットの導入について

兵庫県議会議員の削減された議会費を活用して、紫外線UV照射ロボットが9月3日当院に納入されました。名前は「フィン」くんと言います。紫外線を短時間で照射することができ、医療従事者の清掃等の負担が大幅に軽減しています。



## 新型コロナウイルスワクチン接種について

血液内科部長(ICD) 野村 哲彦



兵庫県内でも新型コロナの流行も、やや治まりつつあるようです。しかし油断は禁物で、緊急事態宣言が解除されたあとも3月4月の歓送迎会、移動の時期に再度広まるリスクを念頭に置きながら行動をお願いします。

さて、医療従事者に対するワクチンの先行投与が開始されました。ファイザーのmRNAワクチンが認可されましたので、当院でもファイザーのワクチンの投与を予定しています。このワクチンの効果は、新型コロナ感染症の発症リスクを95%抑える効果が確認されており、また重症化もしにくくなります。インフルエンザ等他のワクチンと比較しても効果は高いものとされています。

3週間ごとに2回接種が必要ですが、初回接種から2週間程度で効果はある程度出ますが、十分な効果を得るためには2回接種が必要です。ただ現時点では、効果がどの程度持続するかはわかってはいません。

臨床試験では接種部位や、全身への副反応は半分以上の方にみられますが、接種部位の痛み、はれ、頭痛、筋肉痛、発熱、関節痛等が報告されていますが、数日以内には回復しています。重篤なアナフィラキシーが起こる頻度は、20万人に1人程度とされています。アナフィラキシーを起こした方も、適切な処置が行われ、生命に関わることはありませんでした。長期の副反応については不明ではありますが、mRNAは、速やかに体内で分解されることから可能性としてはきわめて低いものと考えます。ワクチン接種後に亡くなった方の報告もありますが、現在は各国で高齢者を中心に接種されています。一般のワクチン非接種例と比較して死亡者数が多いということもないため、ワクチンと因果関係はないものと考えられています。

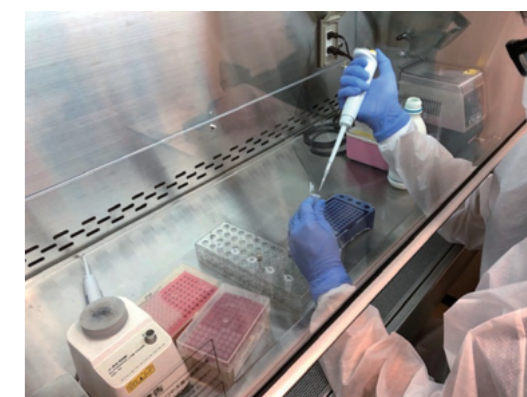
また、妊娠している方や、胎児に関するリスクは低いものと考えられていますが、産婦人科学会の指針では、12週以降は接種を考慮してもよいとなっています。授乳中の方は問題ないものとされています。

ワクチンを接種すれば、自分自身が発症しにくくなる、重症化しにくくなるだけでなく、おそらく周囲への感染も抑えられるものと考えられています。また、CDC(疾病対策予防センター)は、ワクチンを打ち終えた人は感染者との接触が確認されても隔離の必要がないとの新しい指針を出しました。日本でもその方向になるかと思しますので、濃厚接触者とされてもワクチンを接種していれば2週間の自宅待機の必要がなくなる可能性があります。

新型コロナのワクチンについて、疑問、質問等ある方はご相談ください。

## 検査部

現在、新型コロナウイルスへの感染の有無を検査する方法にPCR検査と抗原検査があります。PCR検査は、検体処理・測定との2つの行程で2時間程度で結果が出ます。抗原検査は20分程度で結果が出ます。多くの場合はPCR検査を実施しますが、入院を要する場合など迅速な結果が必要な場合に抗原検査を有効に活用しています。検査は、臨床検査技師が手袋・マスク・ガウンなど防護具を装着してウイルスを外部に漏らさないように隔離された部屋の安全キャビネット内で作業します。正確な結果を返せるように、今後も努めます。



## 入退院支援センター

入退院支援センターでは、入院前に看護師と事務員が患者さんやご家族に面談を行い、入院時の準備物や手術・検査について説明します。また、日々の生活の様子をお聞きし、入院中や退院後に関する様々な相談や質問にお答えしています。把握した情報から、課題に応じて医療福祉相談員や薬剤師、栄養士等の多職種とも連携を図り、安心して入院加療が受けられるように支援します。さらに、地域医療連携室の入退院支援職員や入院病棟の看護師と情報共有を図り、早期の退院支援にも取り組んでいます。



## おうちいながら病院と繋がる オンラインがん相談はじめました!

「がん相談支援センター」ではオンラインでのがん相談を始めました。

お好きな場所からお好きな時間を指定していただき、少しでも安心して繋がる相談や情報提供ができればと思っています。まずはお気軽に予約を入れてみてください。オンライン上ですが顔を合わせない不安や疑問をお話してみませんか。

オンラインがん相談では、LINEのビデオ通話、iPhone、iPadのフェイスタイムのビデオ通話、スカイプに対応しています。



右の2次元コードから申込フォームに必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。メッセージを受信後、こちらより確認のご連絡を差し上げます。



相談時間:平日9時~16時(金曜日午前中を除く)

申し込みフォーム